


実践的データ分析コース
～開催記録（概要版）～

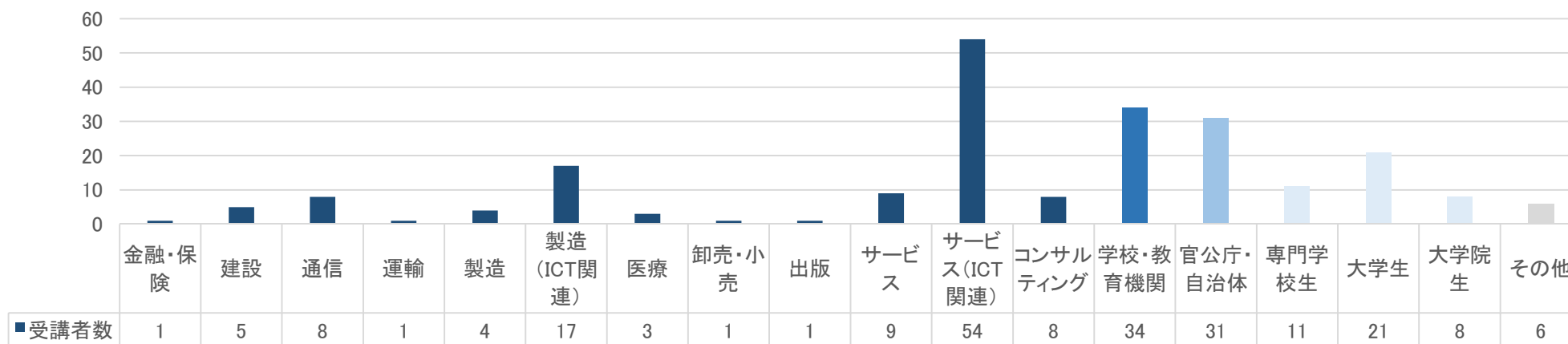


平成27年6月

1-1. 受講者数

会場	受講者数	受講者数(立場別)				
		企業	学校・教育機関	官公庁・自治体	学生	その他
広島	20	4	15	0	0	1
長野	15	11	1	2	0	1
仙台	20	11	3	4	0	2
熊本	14	9	0	4	1	0
大垣	24	18	2	3	0	1
高松	18	12	1	4	0	1
大阪	21	8	2	6	5	0
札幌	22	8	3	2	9	0
金沢	27	9	0	6	12	0
沖縄	12	10	2	0	0	0
横浜	30	13	4	0	13	0
合計	223	112	34	31	40	6

1-2. 受講者数(産業分野・業種詳細)



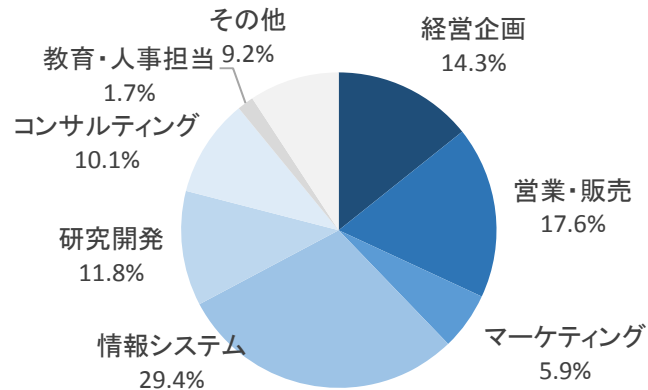
2. 研修コースのアジェンダ

日程	アジェンダ	学習項目	所要時間
1 日 目	1. ビッグデータ利活用入門	<ul style="list-style-type: none"> ビッグデータの特徴 ビッグデータ利活用の全体像 ビッグデータを支える技術 法的に気をつけること 	70分
	2. ビッグデータ利活用の導入計画	<ul style="list-style-type: none"> ビッグデータ利活用の流れ データの棚卸し ビッグデータ利活用での体制と役割 ビッグデータ利活用事例の読み解き 	70分
	3. ビッグデータ利活用計画の策定と評価	<ul style="list-style-type: none"> ビッグデータ利活用におけるビジネス展開(運用)の流れ ビジネス展開(運用)でのポイント 全社へ普及するための仕掛け グループ演習 	75分
	4. データ分析手法とツール	<ul style="list-style-type: none"> なぜデータ分析が必要なのか 目的にあったデータ分析を選ぶには 全体像を把握する分析手法 データ分析とICT 	75分
	5. データ管理とセキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> データ管理 ビッグデータとセキュリティ 	60分
	インストラクター向け説明会(任意参加)	<ul style="list-style-type: none"> 研修コースの指導ポイントと運営上の留意点 質疑応答 	90分
2 日 目	6. データ分析結果の図解手法	<ul style="list-style-type: none"> 数値データの可視化手法 分析結果の図解による効果 	60分
	7. 総合演習(グループワーク)	<ul style="list-style-type: none"> ケーススタディの読み解き ビッグデータ利活用企画書の作成 	110分
	8. 総合演習(ハンズオン)	<ul style="list-style-type: none"> BIツール利用のワークショップ BIツールを利用した演習課題 	190分
	インストラクター向け説明会(任意参加)	<ul style="list-style-type: none"> 研修コースの指導ポイントと運営上の留意点 質疑応答 	90分

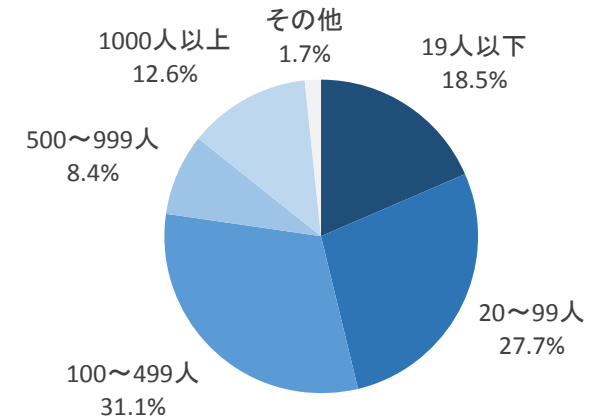
3-1. 受講者の属性(企業)

- 様々な職種(所属部門)、組織規模、地位役職の方々に受講いただいた
- また、およそ8割の受講者が、勤務先の組織においてビッグデータ利活用が導入段階(「取り組みを検討している」「取り組む予定はない」)であることが確認された

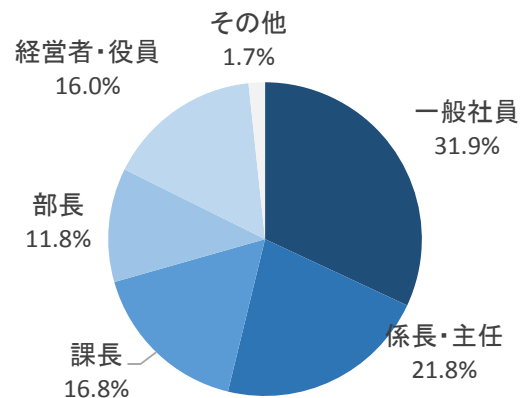
■ 勤務先における所属部門 N=112



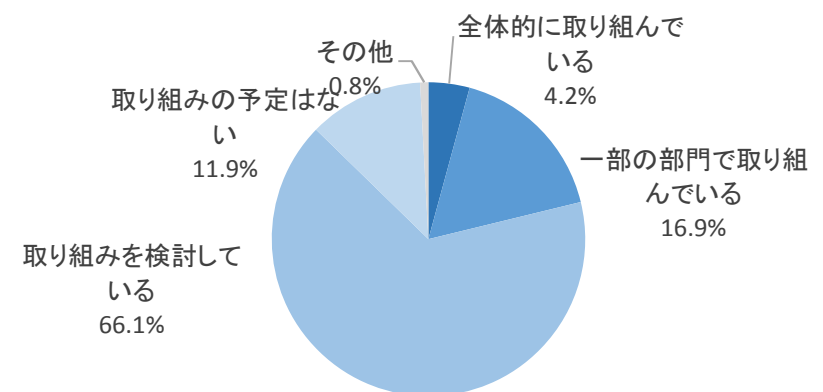
■ 勤務先の組織規模 N=112



■ 勤務先における地位役職 N=112



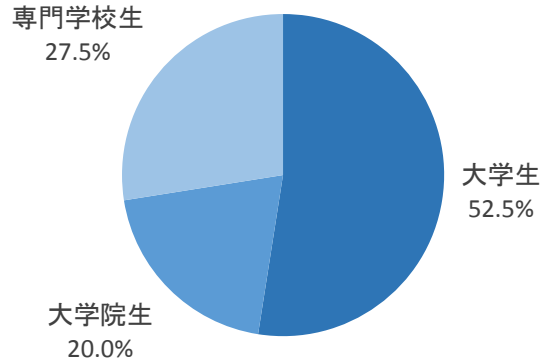
■ 勤務先におけるビッグデータの利活用状況 N=112



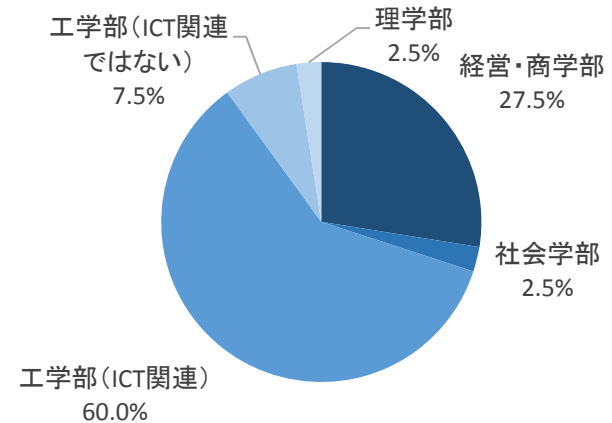
3-2. 受講者の属性(学生) N=40

- 理系(工学部、理学部)と文系(経営・商学部、社会学部)の割合では、理系が7割、文系が3割となった
- ビッグデータに関連した講義やゼミについて、「ある」と回答した受講者が4割で、高等教育機関においてもビッグデータへの関心が高まっていることが確認された

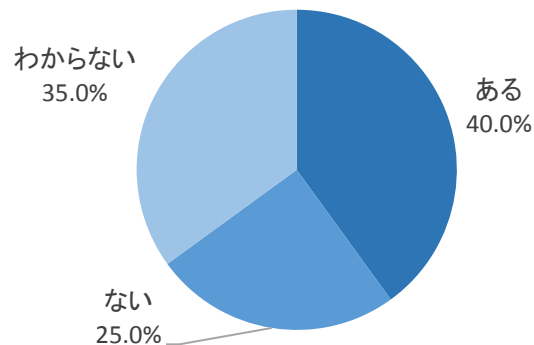
■所属 N=40



■専攻 N=40



■ビッグデータに関連した講義やゼミ N=40



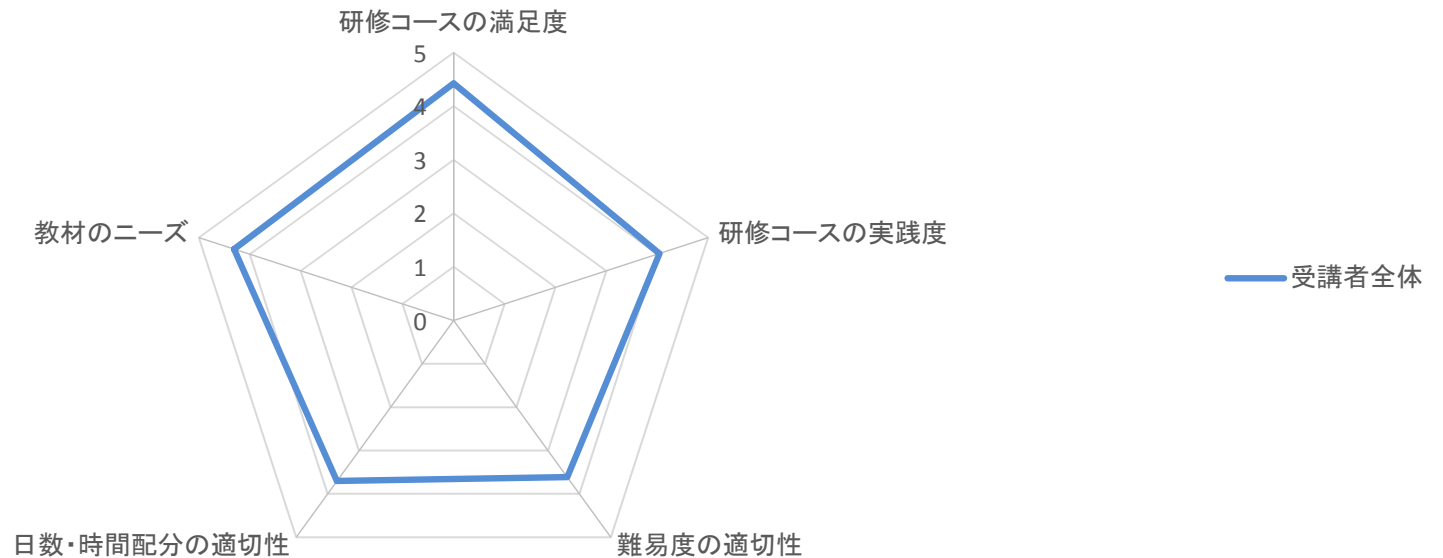
■ビッグデータに関連した講義やゼミの内容

- Hadoopを用いたTwitterデータの解析
- ITビジネスプランニング
- マーケティングサイエンス
- 自然言語処理 データ分析
- 統計処理やビッグデータ、データマイニング
- 分散システムに関する講義

:

4. 研修コースの評価

- 受講者アンケートの結果(5段階評価)は下図の通り
- 受講者全体で、「研修コースの満足度」「研修コースの実践度」「教材のニーズ」が、いずれも4.0点以上の評価となった(100点満点で80点以上)



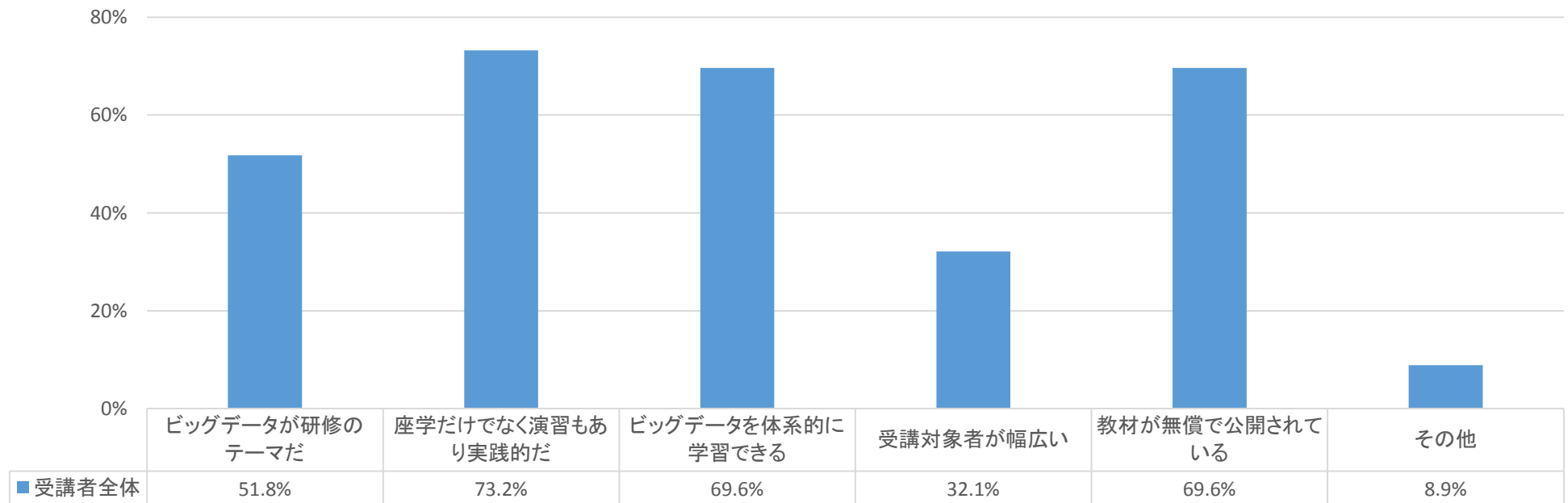
立場(人数)	研修コースの満足度	研修コースの実践度	難易度の適切性	日数・時間の適切性	教材のニーズ
企業(106)	4.44	3.98	3.66	3.57	4.43
学校・教育機関(34)	4.65	4.15	4.06	4.00	4.47
官公庁・自治体(29)	4.38	4.03	3.69	3.97	4.21
専門学校生(11)	4.00	4.00	3.18	2.82	3.91
大学生(21)	4.48	4.29	3.00	3.95	4.14
大学院生(7)	4.00	4.14	3.29	4.14	3.43
受講者全体(213)	4.43	4.04	3.61	3.70	4.31

※赤字は最高点(社会人、学生別)

5. 研修や勉強会を企画・開催する立場として、本研修の魅力に感じている点

- 「一般企業へ研修を行う講師」「社内の研修・勉強会担当者」「大学、専門学校等の教員」に対して、本研修コースの魅力に感じている点についてアンケートを行った
- 評価が高かったのは、「座学だけでなく演習もあり実践的だ」「ビッグデータを体系的に学習できる」「教材が無償で公開されている」で、いずれもおよそ7割の方が魅力に感じていると回答した

■ 研修や勉強会を企画・開催する立場として、本研修の魅力に感じている点 N=56



6-1. 研修コースの効果：ビッグデータについて体系的に学ぶことができた

○サービス(ICT関連)/研究開発/課長

こういう内容を自己学習するというのはけっこうハードルが高いので、体系的に一連の流れが学べて、実習までできたので非常に有意義だった。

○コンサルティング/マーケティング/経営者・役員

今まで、ビッグデータや分析に関して勉強する機会がなかったので、このような体系的に理解できる機会を与えていただき非常に感謝している。

○コンサルティング/マーケティング/一般社員

実務でデータ分析を行っているが、普段意識していること、意識していないことを再確認して、体系的に勉強することができた。

○大学生/経営・商学部

データ関連のことを研究していて、知っているつもりだったが、より深く体系的に学ぶことができた。

6-2. 研修コースの効果：業務で活かせる実践的な内容だった

○卸売・小売/情報システム/係長・主任

こういう数字を業務でも使っており、もっと深く見ていけるという気づきがあった。

○建設/コンサルティング/一般社員

企業内部の話など、日常の業務に役立つような内容だった。

○サービス(ICT関連)/経営企画/経営者・役員

これまで経験的な部分で動いたり、勘に頼ったりが多かった。研修を受けて、データは周りにいっぱいあるので、上手に分析できると、もう少し決断をしっかりとできるのかなと思った。

○官公庁・自治体/情報システム/係長・主任

以前、国民健康保険の担当をしており、医療費や税など色々な分析をしていたが、その時にこれを知っていれば、もっと違う視点で分析できたのかなと残念に思っている。是非、後任のものに紹介しながら役立てていきたい。

6-3. 研修コースの効果： 自社(自身)でデータ活用を始めるきっかけになった

○運輸/情報システム/課長

会社から、ビッグデータを使って何かしたいという課題を与えられて途方に暮れていた。今回、色々知識が得られてヒントになった。

○サービス/情報システム/一般社員

今年から、事業でICカードを導入するので、分析をどうするか検討していた。今回、要因分析から企画までを勉強できたので、会社に持ち帰って上司を説得しようと思う。

○サービス(ICT関連)/その他/経営者・役員

いつも売上や顧客データをいじって集計まではするが、その後、何に使えばいいのかいつも疑問があった。今回の研修で、どうやって企画検討するのか切り口が分かった。

○大学院生/工学部(ICT関連)

(データ分析について)大学院では、興味がある人はどんどん先に進んで、自分みたいにとっかかりが無い人はなかなか先に進めなかったが、今回知識を得たので、今後の学習に活かしていきたいと思う。

6-4. 研修コースの効果： 様々なバックグラウンドの人と話せて刺激になった

○学校・教育機関/研究開発/係長・主任

まったく違う業種の方々と接点をもてたということ、自分とは違う研究領域の話を知ることが非常に刺激になった。業種は違っても、自分の仕事に活かせると感じている。

○サービス(ICT関連)情報システム/一般社員

いろんな業界・業種の方が参加して、いろんな活用ができるということが知れてすごいと思った。

○大学生/経営・商学部

よくニュースでビッグデータを聞くが、就職活動前に身をもって知ることができてよかった。企業で働いている人の企画の仕方や、考え方などを学べたことが良いきっかけになってくると感じる。

○大学生/経営・商学部

グループワークを通して、社会人の方たちと関わることができて良かった。ビジネスを知っている方は観点が違うなと思った。

7-1. 期待される教材の利用シーン： 社内でのデータ分析部署の設置で利用

○通信/営業・販売/課長

これから会社に帰って、上司や部下が理解を深める場を設けて、会社で実践していけるような体制を作っていきたい。

○コンサルティング/コンサルティング/課長

教えていただいたことを、今後も使っていけるようにしていきたいというのと、どうやって社内に拡散していこうかなというところを考えていきたい。

○サービス(ICT関連)/経営企画/経営者・役員

今後役に立っていききたい。ただ、この量を実際にやれば、三、四日は必要かなと感じている。スケジュールをうまく見直して、まずは社内で展開していきたい。

7-2. 期待される教材の利用シーン： ベンダ、SIer企業の営業・販売部門の育成に利用

○製造(ICT関連)/経営企画/部長

ビッグデータ分析を事業化する目標を持っており、そのための要員を育成するために参加した。自分自身でツールを使ってデータを分析することができて非常に楽しかった。ありがとうございました。

○製造(ICT関連)/経営企画/部長

お客様を含む周りの人にどういう風に説明していくかゼロから学べた。

○製造(ICT関連)/営業・販売/部長

お客様にビッグデータの利活用を提案するとき、どうやって進めればいいかが疑問だったが、結局PDCAサイクルを地道にまわすことが必要だということがわかった。

○サービス(ICT関連)/マーケティング/係長・主任

非常に網羅性の高い研修だった。お客様のビジネスに活かしていく一つのきっかけになればと思って参加したが、ある程度、学習やツールの経験を積んでいくということが重要になってくることが分かった。非常に有意義だった。

7-3. 期待される教材の利用シーン： 高等教育機関の講義やゼミで利用

○大学院生/工学部(ICT関連)

回帰分析という手法は、研究でもベーシックに使われるものだが、何を見たいか、どういった体制、ビジネスモデルでやるかといった部分が重要だと感じた。これから社会人として、何のために、誰のためにやるのか、何につながるのか、ということ常々頭に置いて仕事をやっていこうと思う。

○学校・教育機関/教育・人事担当/係長・主任

やっぱり学生に必要なのは、こういうことかなと非常に感じた。所謂ツールの使い方とかではなくて、あくまで、ビジネスの課題があって、それに対してどう解答していくのか、答えの無い授業だと思う。こういうものを、(学校でも)是非やっていきたいと思う。

○大学院生/工学部(ICT関連)

研究者という立場でデータベースとビッグデータを扱っているが、組織という観点で見る姿勢が無かったので非常によかった。

7-4. 期待される教材の利用シーン： オープンデータ推進のための行政職員の育成に利用

○官公庁・自治体/情報システム/課長

どの行政も分析まではできていない、こういうことができる人材をどんどん育てていかなければいけないと感じた。また、行政はオープンデータを公開する立場にあるので、出来るだけ皆さんに使っていただけるようにすることが大事だと改めて感じた。

○官公庁・自治体/コンサルティング/係長・主任

私自身は、行政の方でデータを出す立場なので、どのようにすれば皆さんに使ってもらえるかヒントが得られたと思う。

○官公庁・自治体/情報システム/一般社員

オープンデータの整理を進めようとしているが、どうしても国との整合性の部分でまだまだ進まない。今回、企画立案から学んだので活かしていきたいと思う。

○官公庁・自治体/情報システム/一般社員

市でもオープンデータやビッグデータを推進していく方向なので、これを課に持ち帰り、仕事にフィードバックして役立てていきたい。